

総合的な学習

自己表現力と職業観を育む総合的な学習の教材開発に関する研究

—修学旅行先の東京企業研修の導入による効果を中心に—

松尾 砂織

1. はじめに

本校では中学校2年生で、社会体験学習として「わくわくWORK みはら」を実施している。この学習は、総合的な学習の一環として実施しており、今年で10回目の実施を迎える。この社会体験学習のねらいは、ただ単に仕事を体験する進路学習として扱わず、あくまで生き方の学習の一環として子どもたちの心に響く体験を重視して実施することである。また、体験を通して社会が多くの人々の努力と協力によって成立していることを実感させることもねらいとしている。社会体験の意義は、文献調査や一時的な聞き取り学習では、実感に基づく理解にまで至りにくい。こうした点から、より深い地域理解を促すためには、地域の人とともに長時間の仕事をする体験学習が有効であると考えられる。また仕事場の一員として、何らかの役割を果たそうと自らが思い、考え、動けるようになるためには、ある程度まとまった日数として5日間が妥当であると考えられる。学習指導要領特別活動の学校行事(5)には、勤労生産・奉仕的行事の項に、職業や進路にかかわる啓発的な体験、ボランティア活動などにより、勤労の尊さや意義を理解し、職業や進路の選択に役立つ勤労観や職業観を身に付けるなど社会人としての生き方を深めることができるような指導の大切さが述べられている。社会体験学習には、体験活動を通して、問題解決のプロセスを学ばせ、主体的に自己の生き方を考えさせるという大きなねらいがある。学ぶべき価値を意識した社会体験学習にするためには、体験学習の準備とそのまとめだけで学習を終えるのではなく、その学習の意義を理解し、他の学習と系統

立てて指導を進める必要がある。

2. 研究の構想

(1) 研究の目的

本研究は「働くこと」に対する見聞を広げ、知り得た知識をもとに、実際に「働くこと」を体験する学習を、総合的な学習の教材開発および学習指導開発を行うことを目的としている。また同時に、本学校園の研究テーマにもなっている創造的問題解決能力の育成を図ることも目的となっている。本学校園では、創造的問題解決能力を「自らを取り巻く状況の中から問題を発見し、創造的思考を行って解決を図る能力」と定義している。

(2) 研究の方法

勤労の尊さや意義を理解し、職業や進路の選択に役立つ勤労観や職業観を身に付けるためには、今現在社会人として活躍する大人の姿を見たり、話を聞いたりして、見聞を広めることが必要であると考えられる。同時に「働くこと」に対する知識を深めるために、自分にとって興味関心の深い職業に関する調べ学習を行う必要もある。なぜならば、中学生にとって、働くことへの認識が低いからである。日々の学級指導で提出する「若い芽」(本校で実施している日記のような生活記録帳)に書かれてある日記を見ても、家の手伝いに関する記述はほとんどない。夏休みなどの長期休暇中であれば、家の手伝いをすることはあっても、普段の生活の中にそれが位置づいている生徒が多いとは言えない。生徒同士の会話や、家庭に帰ってからの過ごし方を見ても、勤労という概念はほとんど

ないように感じられる。そのような生徒実態を考えた時に、「わくわく WORK みはら」を行う以前に、まずは、勤労とは何かを考える場を設定し、働くことに対する見聞を広めることが必要ではないかと考えた。そこで、今年から修学旅行先を東京へ変更し、職業に対する見聞および知識を深めることを目的とした修学旅行に切り替え、修学旅行先の東京で企業研修を実施することにした。

(3) 単元の学習計画

単元計画を次に示す表1のように計画した。

表1 単元計画

第1次	・企業訪問と「わくわく WORK みはら」との関わりに関するガイダンスと訪問を希望する企業に関する予備アンケート調査する。	1時間
第2次	・選んだ企業について、個人で調べ学習をしてレポートを作成する。	2時間
	・修学旅行3日間の行程説明と東京での企業訪問に関わるガイダンスを行う。	2時間
	・グループに分かれて、リーダー決めをする。	1時間
	・プレゼンテーションソフトのスキル演習をする。	1時間
	・個人で企画書を考え、ワードで企画書を作る。 ・個人の企画書を持ち寄って、ブレインストーミングを行ってから、グループでスライドにする内容を絞る。	2時間
	・役割分担をし、スライドを作る。 ・スライドにあわせて、発表練習を行う。	2時間
	・グループ内で中間発表会のプレゼンテーションを行う。 ・自己評価および相互評価を行い、気付きを評価シートに書き込む。 ・質疑応答を行なう（1班あたり	1時間

	質疑までで5分以内)。 ・スライドに修正を加えて、事前学習としてのスライドを完成させる。	2時間
	・メディアリテラシーを高めるためのガイダンス（フジテレビで番組作りをする際の事前学習) ・役割決めをする。	1時間 1時間
	・企業訪問グループで訪問ルート、昼食場所、交通費用などの最終確認をする。	1時間
第3次	(午前) 小グループによる企業訪問を行う。 (午後) クラスごとにフジテレビで番組制作を行い、作成後に合同でフィードバックを行う。	9時間
第4次	・企業訪問で学んだこと、「わくわく WORK みはら」で活かせることなどを個人でレポートにまとめる。 ・レポートをパソコンで入力し、デジタルポートフォリオを作成する。 ・小グループで企業訪問のスライドを作成する。	6時間
第5次	・7年生に対して学習の成果を発表し、他者評価を受ける。	2時間
	・7年活からのフィードバックを元に修正を行い、発表練習を行う。	2時間
	・保護者に対して学習の成果を発表する。	1時間

(4) 具体的な指導の流れ

- ①東京にて訪問が可能な企業を紹介し、企業調べを個人で行うことによって、職業観を身につけさせる。
- ②訪問を希望する企業は、原則希望調査を行ってからとし、生徒の意欲関心に沿った企業選択となるように何度も調整し、場合によっては個別に面接を行って訪問先の企業を選択させる。
- ③ワープロソフトを使って、個人で一つ『企画書』を作らせることによって、企業に対する理解を深めさせる。
- ④訪問する企業ごとに集まり、グループリーダー

を決めさせる。

- ⑤『企画書』を持ち寄って、グループごとにブレンストーミングをさせ、必要な情報を取捨選択させる。
- ⑥グループで意見をまとめ、発表原稿を作成させる。
- ⑦発表原稿を元にして、プレゼンテーションソフトを使って、グループで一つスライドを作らせる。
- ⑧中間発表会での評価項目と評価の視点を示し、それに合った発表内容に修正させる。
- ⑨中間発表会で、他のグループのスライドや発表内容を見て、職業に対する知識を深めさせる。
- ⑩中間発表会で、評価の視点を提示し、相互評価をさせる。
- ⑪中間発表会でもらった意見を元にして、修正を加え、『企画書』とスライドを完成させる。
- ⑫企業訪問を終え、インタビューをして分かったこと、調べて分かったこと、「わくわく WORK みはら」で活かしたいことについて情報を整理して、中間発表会のスライドに書き加えさせる。
- ⑬プレゼンテーションに必要な内容を指導し、グループで発表の練習をさせる。
- ⑭発表を聞いている相手のことを考えて、適切な言葉を選択しながら、発表させる。
- ⑮学習の成果を『学習発表会』で発表させる。

3. 第2次の実践事例

(1) 授業の構成について

①題材について

- 単元名 東京見聞録2010
- 学年 中学校8年生 81名
- 実施時期 平成22年11月～3月

本単元は、修学旅行先の東京で自主研修を実施し「働くこと」に対する見聞を広め、社会と自分とのかかわりについて考えを深めさせることをねらいとしたものである。東京の自主研修で学んだことは、2月に実施する職場体験に活かすことができるため、系統だった学習と考えている。

学習課題に対して、意欲的に取り組もうとする生徒が多いが、話し合い活動においては、自分の考えを話したり、人の考えを聞いて質問したりすることは難しく、普段の学級活動においても、他者と考えを交流することは難しい実態がある。

指導にあたっては、プレゼンテーションソフトを用いて企画書を発表する時には、どのような見せ方、伝え方の工夫が必要かに気付かせたかった。そのために、プレゼンテーションを見る側の視点と評価のポイントを具体的に示し、指導した。各グループでプレゼンテーションを行う場面では、発表を通して表現力を高めるだけでなく、他のグループの発表を見て学んだことが、自分たちの企画書に活かせるように指導した。

②単元の目標

- 見聞を通して、多くの人の努力と協力によって実社会が成立していることへの意識を高める。
- 政治・経済・産業・文化の中心である首都東京の見聞を通して、社会と自身の関わりについて考えを深めることができるようにする。
- 調べ学習を通して学んだ学習の成果を、2月に実施する社会体験学習「わくわく WORK みはら」で活かそうとする意欲を高める。
- 集団生活や班別行動を通して、集団行動に必要な規律とマナーを学ぶとともに、社会人として求められる公共のマナーや規範意識を高める。

③学習計画（全36時間）

- 第1次 ガイダンス・・・・・・・・・・1時間
- 第2次 事前準備およびスキル演習・・・16時間
- 第3次 修学旅行先での東京都内自主研修9時間
- 第4次 学習のまとめ・・・・・・・・・・6時間
- 第5次 学習発表に伴うスキル学習・・・4時間

④第1次と第2次の概要

ここでは、第1次および第2次の9時間目までの学習過程について振り返ってみる。第1次の1時間目で、ガイダンスを行った。企業訪問と社会体験学習のそれぞれの目標を生徒に知らせ、2つの学習に関連性があることを意識させるガイダンスになるよう工夫した。そして、企業先を選出す

るにあたっては、夏休みの課題として職業調べを行わせた。また、自分が希望する職種や職業、具体的な企業名を挙げさせ、宿泊先のホテルから企業までの移動手段も個人で調べさせた。企業選択は、生徒の希望が多いものを採択し、企業や官公庁に連絡を取りながら、最終的には JAL 機体整備工場と日本銀行、ハートプラザと NHK、法務省、カナダ大使館、日本科学未来館、警視庁本部の 6 箇所、6 グループとした。生徒の興味関心に沿った企業選択を行ったために、調整する時間が膨大にかかったが、生徒の興味関心が高い企業を選択することで、訪問企業が決定した際に大きな混乱はなかった。企業研修を行うにあたっては、企業自体の活動を調べるのは言うまでもなく、訪問した際の質問内容を事前に企業へ提出する必要があるため、調べて分かる質問ではなく、企業訪問をして担当者に聞いて初めて分かることを考えさせるようにした。また、宿泊先のホテルから訪問する企業へ行く際には、公共交通機関を利用させた。東京都内の路線については、事前に調べ学習を行っていた。そこで、調べて分かった情報を元に、実際に使用する場面を設定した。企業訪問の約束時間をもとにして、ホテル出発の時間、かかる費用、所要時間、移動手段とその移動経路、訪問した企業から次の企業先であるフジテレビまでの移動経路、費用をすべてグループ持ちとし、計画を立てさせた。小グループの活動においては、最初は人任せで主体的に学習を行うことが難しいように見えた生徒もいたが、調べ学習が具体的になるにしたがって少しずつ事前学習に取り組む姿勢が主体的になったように思えた。

⑤第 2 次の 10 時間目

10 時間目では、「働くこと」に対する見聞を広げることを目的とした学習活動を仕組んだ。12 月に修学旅行先の東京で企業を訪問し、自主研修を行うにあたって、研修内容を企画書にまとめて、他者に伝えるプレゼンテーション活動とした。これは、企画書を発表し、他者からの意見や考えを聞くことを通して、表現力を高める授業であり、企業訪問をする前の事前学習として行った。した

がって、他者にグループで調べてまとめた情報を適切に伝えるスキルの向上をめざした授業にした。企業訪問では、事前に調べた情報と、実際に見聞して知り得た情報の差異も確かめたり、事前に質問事項を考え、それを聞き取り調査で確かめたりする活動を計画していたので、プレゼンテーションスキルの向上を事前学習として行った。

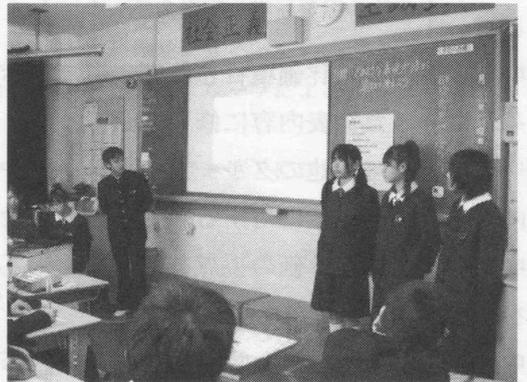


図 1 担当の箇所を発表する生徒の様子

本時は、企業訪問の中間発表会として位置づけていた。東京で訪問する企業先は 6 つだが、実際に生徒が訪問するのは 1 つの企業だけである。そこで、お互いの発表を見ることを通して、自分が訪問しない企業への理解を深めること、また、他者がどのような疑問を持って企業訪問をしようと考えているか知り、どのように自分たちの発表に活かせるかを考えさせる場とした。つまり、創造的問題解決能力を発揮させるための場の設定でもあった。そのためには、プレゼンテーションスキルの一つとして、表現方法の工夫が求められた。つまり、聞いている人にとって分かりやすく、聞きやすいプレゼンテーションにするための表現の仕方やコミュニケーション方法を考える場の設定でもあった。しかし、事前に効果的なプレゼンテーションの仕方についての学習を十分に深めていなかったために、グループで作成した発表原稿を丸暗記し、こちらがあらかじめ指導したプレゼンテーションのためのマニュアル通りに発表を進めてしまうグループが多かったように感じた。中には、指し棒を使用するなど工夫する生徒もいたが、やはりその使用方法も未熟だったように思う。

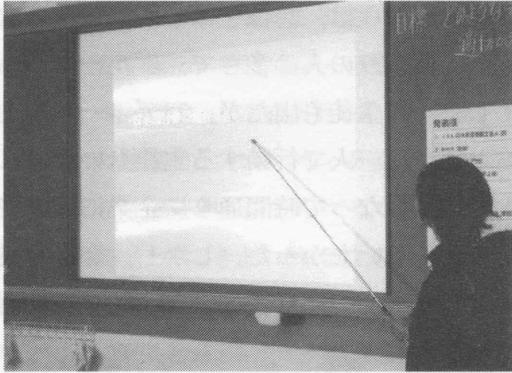


図2 指し棒を使用して発表する生徒の様子

発表中は、話すことに精一杯で、客観的に自分たちの発表を振り返ることはできないので、発表を見ているグループが、発表が終わった後に評価カードを記入するようにした。これによって、後から自分たちの発表を振り返る手助けとなるからである。評価の視点は、事前に提示されていたにもかかわらず、発表内容はそれに沿うものではなかったように思う。

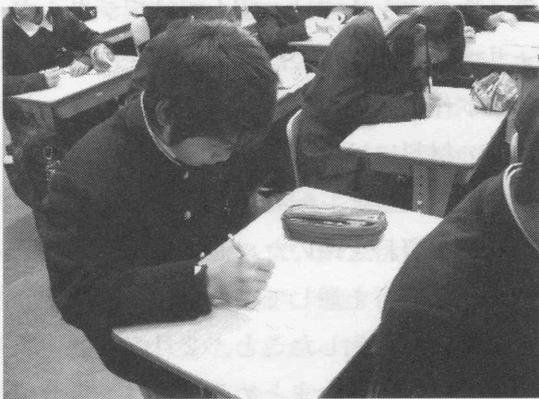


図3 発表を見て評価をつける生徒の様子

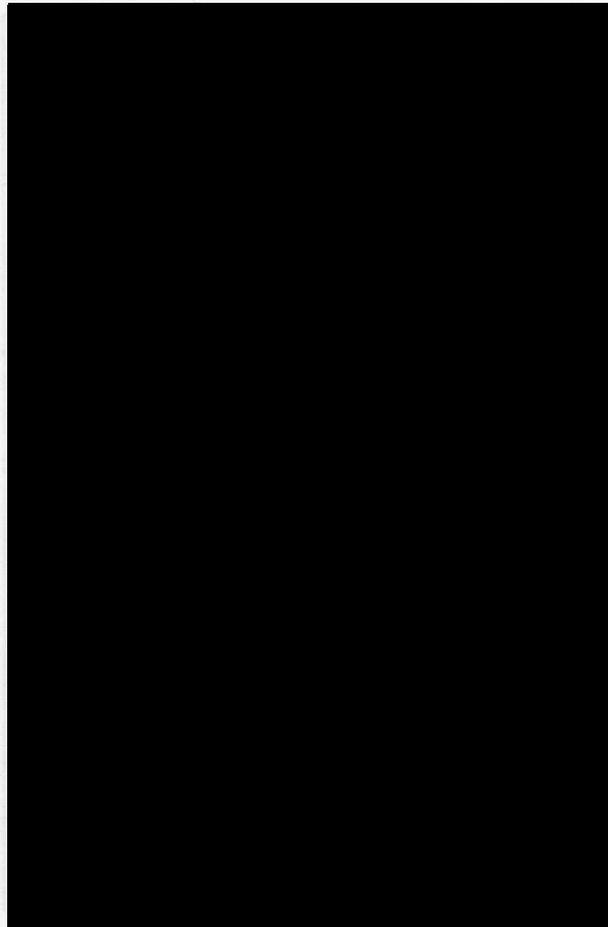


図4 グループで作成したスライドの一部

発表後の質疑については、発表を終えたグループの中の1名が、質問をするように決めていた。グループ内には、質問が出た場合に、応答する役割を決めていた。しかし、質問内容が分からないので、応答が安易で適当だったのが気になった。特に自主的に手を挙げて発言した生徒に対する応答が攻撃的だった。これは質問されたことへの焦りと、その場を早くやり過ごしたいという思いの表れだが、改善する必要がある。第4次で、再度プレゼンテーションスキル演習を計画しているので、その際には、どのような発表方法が適切かを再度指導していきたい。以下、本時の学習過程を表2に示す。

表2 学習過程

学習事項	指導過程と留意点・学習活動
1. 学習課題への接近	①本時のねらいを確認させ、見通しを持たせる。
2. 学習課	②作成した企画書の内容を他者に伝え

題の設定	<p>るためには、どのような点に気をつければよいかを考えさせる。また、どのような視点で発表を見たり聞いたりすればよいかを確認し、発表への見通しを持たせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提示の仕方、見せ方、時間。 ・話し方。 ・その他ジェスチャーなど。
3. 学習課題の追求	<p>③グループで発表をさせる。</p> <p>(留)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間設定をする。(発表持ち時間3分以内) ・発表の準備が滞ったり、発表中操作に不具合が生じたりしたときは随時アドバイスをする。 <p>(評) 評価のポイントに従って、発表内容の評価をつける。</p>
4. 本時のまとめ	<p>④発表を聞いて学んだことや自分のグループに取り入れたい点を中心に個人で考えを書かせる。</p> <p>(留) 時間設定をする。机間指導をして、考えをまとめきれていない生徒に対して個別に指導する。</p> <p>(評) 他のグループの意見と自分のグループの相違に気付き、考えをまとめさせる。</p>
5. 次時への発展	<p>⑤本時の学習をふり返らせ、次回は他者の意見を取り入れながら修正案作りに取り組むように話す。</p>

⑥第3次

第3次は、修学旅行の当日であった。企業研修を実際に行った際の課題をいくつか挙げる。企業訪問を計画した当初は、生徒の自主性や主体性を重んじたかったため、引率者抜きの訪問を考えていた。しかし、生徒が選択した企業はすべて引率者とともに行くことが条件であったため、それが叶わなかった。しかし、引率者がいたからこそ、生徒の安全管理や健康面を配慮した学習活動となったことは事実である。グループによっては18名という大人数の企業もあり、これは一度に全員が動くには困難な規模だった。そこで、出発の一週間前にバディー制度を導入した。このバディー制度とは、グループ内で2～3名の小集団を作り、ホテル出発時から、企業到着まで絶対に離れない命綱の代わりになる仲間で行動するというルールである。これにより、生徒の不安や負担が若干軽減できたことは事実であるし、絶対にバディーと離れないという結束感も高まったように感じた。実際のところ、通勤ラッシュ時にホテルから企業

へ移動する行程は、想像をはるかに超える大変さだった。あまりの人の多さで、グループからはぐれてしまった生徒も出たが、バディー制度をとったおかげで、一人で行動する生徒もいなければ、一人で迷子になって時間通りに企業に辿り着けなくなる生徒もいなかった。しかし、今後企業訪問を続けていく上で、交通手段については検討の余地があると思う。



図5 企業訪問中の生徒の様子(NHK)

⑦第4次

第4次のまとめでは、個人ではデジタルポートフォリオの作成を行い、グループでは企業研修のスライド作成を行う。デジタルポートフォリオを作る際の材料には、すでに修学旅行のしおりにまとめている内容と、配布された資料や修学旅行中にもらった資料を用いた。他者とは相談せずに、個人が修学旅行を通して学んだこと、修学旅行を通して成長・変化したこと、2月の社会体験学習に活かしたいことをまとめる学習は、自分が行ったことを振り返り、その時には気づかなかった問題に気づいたり、新たな考えを発見したりすることができる。そのために、創造的問題解決能力を育成するための学習教材として有効であると考えられる。以下、生徒のデジタルポートフォリオの抜粋を挙げる。

生徒A

3日間それぞれで学んだこと

1日目ではいろんな場所に行きました。その中でも国会議事堂に行ったことが一番ためになったと思います。理由は今まで見ていた国会議事堂はほんの1部で他にも様々な場所があったからです。普段は見るることができない場所

に行って実際に自分の目で見るのでよかったです。また見学場所から見学場所へ移るときも、色々な景色を見て、場所によって特色があるんだなと思いました。2日目では警視庁とフジテレビへ研修に行きました。警視庁ではビデオで覚せい剤について見て、覚せい剤の怖さを改めて知ることができました。学校でもしてはいけない、やってはいけないことがたくさんあるので警視庁では法律で決まっている社会のルール、学校では学校で決まっている生活のルールを守ろうと思います。フジテレビでは人と協力しないとひとつの番組を作ることはできないので人と協力することの大切さ、人とかかわりを持つことの大事さを学びました。3日目ではグループの集団行動でディズニーランドに行きました。平日でも人が多かったことにびっくりしました。ちょっと走って移動ただけで人に紛れてどこに行ったのか分からなくなったことが多かったので、メンバーにも気を配らないといけないと思いました。単独だったら自由に動き回ることができるけど、集団だと周りの意思を聞いて行動しないといけないので難しいなと思いました。

修学旅行を終えて変化・成長したこと

ルールを守ることの大切さと、人のことを考えることに対して大きく変化しました。ルールを守ることが大事だということはよく分かっていたつもりだけど、警視庁でビデオを見たときにルールを破ったから廃人になってしまったというのが印象に残っていて、改めて大切なんだなあと思いました。人のことを考えて行動することは、私は分かっていたつもりだったけどメンバーに迷惑をかけたことがあったので、分かっているつもりじゃだめだなと思いました。修学旅行は自分の考え方を大きく変えたきっかけになったのでよかったと思います。

2月の職場体験にいかせること

職場体験に行くところもその職場のきまりが決まっていると思うので、守っていききたいと思います。あと、どの職場も人とかかわりが大切な仕事であるし、人と協力して仕事を分担しないとできない仕事もあると思います。こう思った理由は、フジテレビに行ったとき1人だけで番組を作ろうと思っても助けが必要で協力しないと1つのことを仕上げるのは無理だということを知ったからです。なので、職場の方と協力していききたいと思います。

生徒B

3日間それぞれ学んだこと

1日目は、上野での自主研修と国会議事堂、東京タワーを見学しました。そこで僕が学んだことの中の3つに共通していることがありました。それは社会のマナーだと思います。研修場所では、他の方たちも見学しています。国会議事堂では、働いている人がいました。東京タワーでは、エレベーターしか展望台に行けませんでした。自主研修のときは騒がない。国会議事堂のときは、不必要に物に触らない。東京タワーのときは、エレベーターを譲り合うことを学びました。2日目は、JAL整備工場と日本銀行を見学し、「フジテレビのお仕事」を体験しました。JAL整備工場では、安全にフライトができるように、時間をかけて整備していました。日本銀行では政府のお金を扱っています。だから失敗は許されないと思いました。フジテレビでは、ひとつの番組をみんなで協力し成功させる大切さを学びました。2日目では電車でのマナーも大切だと思いました。3日目は、テーマパーク内でのマナーを学びました。それは並んでいるときに順番を抜かさない、騒がないなど、人に迷惑をかけるような行動をしないことなどです。僕はこの3日間でマナーを守る大切さと、影でものを支える重要さを学びました。

修学旅行を終えて変化・成長したこと

行く前はすごく楽しみで、2日目の企業研修も大丈夫だと思っていたけど、実際はそんなに甘くなくて見学時間に1分でも1秒でも遅れると見学ができなくなるという時間の重要さを学びました。1日目は、いかに少ない時間でより多くのものがスムーズに見て回れるかなどを考えました。終えて変化したことは、集団行動を大切にすることです。2日目や3日目で一度はぐれてしまうと再びみんなと会うことは難しいので集団行動を大切にしていきたいと思います。

2月の職場体験にいかせること

僕は、2月の職場体験のときに仕事に対する心構えを学びたいです。せっかく体験させていただくので、挨拶や身だしなみなどの公共のマナーを大切にしていきたいです。「フジテレビのお仕事」ではみんなが一致団結してひとつの番組を作りました。体験する職場でも、事業所の仕事の役に立てるように気を配って頑張りたいと思います。

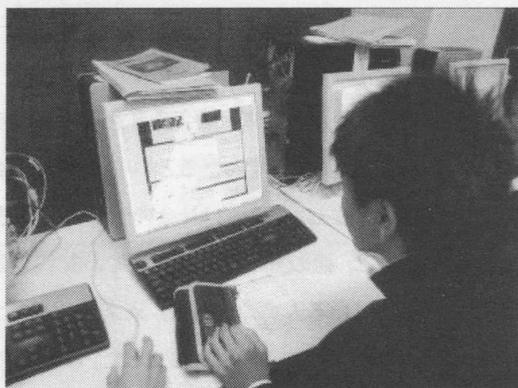


図6 デジタルポートフォリオを作成する様子

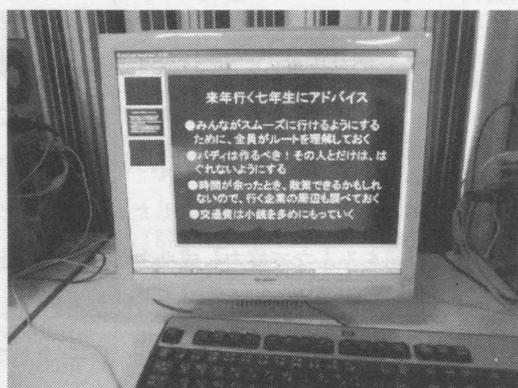


図7 7年生へのアドバイスのスライド

自分で見聞きして分かったこと

警視庁の周りの警備がとても厳しかった。
事件を解決するだけでなく犯罪を防ぐために、パトロールや交通違反のとりしまり、武道の練習という、目立たない仕事をするのが警視庁なんだと思いました。
警視庁の歴史がみれて警察の制服にもいろいろと歴史があることが分かった。

来年行く7年生へのアドバイス

- ・時間より早くついたときのために企業のまわりになにかがあるか調べておくとよい。
- ・切符を買うのに時間がかかるから、「SUIKA」などを持っていくといい。
- ・案外予定通りいけるので時間はあまり早くしないほうがいい。

図8 修学旅行後に付け加えたスライド

5. 結論と今後の展望

本研究の結果、生徒のデジタルポートフォリオの記述から「自らを取り巻く状況の中から問題を発見し、創造的思考を行って解決を図る能力」である創造的問題解決能力が発揮されている場面は伺える。生徒は、様々な体験を通して自分で気づいたり、また仲間の姿を見て気づいたりして、新たな考えに至っている。そして、学んだことを次の新しい場面で活用しようと考えている。

今後は、企業研修のまとめ学習と社会体験学習を平行して行う。1月から社会体験学習の事前学習として、事前に事業所へ訪問し、そこで働くことに関する聞き取り調査をするように計画している。修学旅行を終えて、社会体験学習に活かしたいと考えていたことが、実際に試すことができる場がやってくるのである。また、学習した内容を他者に伝える学習発表会を計画しているので、プレゼンテーションスキルを向上させるための指導を行い、学習発表会の準備を進めていきたい。学習効果の検証は、現時点では、生徒が作成しているデジタルポートフォリオや修学旅行のしおりの記述を分析して、効果の検証を進めているところである。学習発表会は、来年修学旅行へ行く7年生と保護者に対して行うので、その際に発表に使用したスライドや発表スキルに対する他者評価を行う予定にしている。このことから、学習効果の検証を行える可能性があると考えている。来年度に向けて、単元すべてが終了したのちに、まとめ、来年度の指導に役立てたいと思う。